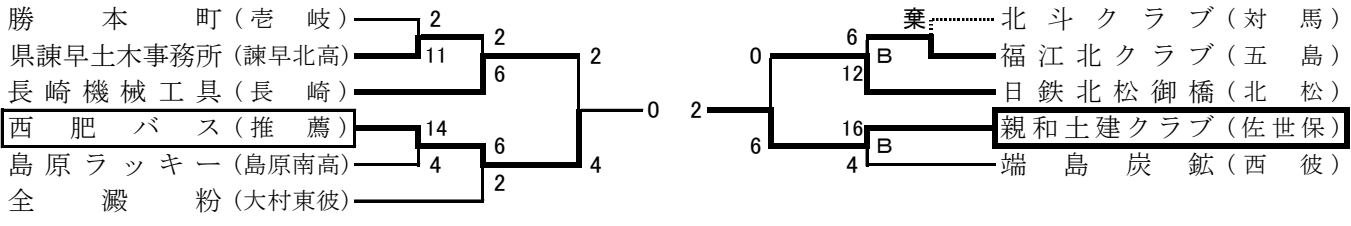


# 初の佐世保勢同士の決勝戦は、初出場の親和土建に栄冠が

**第9回県下郡市対抗準硬式野球選手権大会** 会期：昭和34年10月31日(土)～11月1日(日)  
 会場：A・長崎市宮大橋球場 B・三菱球場



1889年(明治22年)9月5日に創刊された『長崎新報』は、1911年(明治44年)に『長崎日日新聞』に改題。31年後の1942年(S.12年)に国策の「一県一紙令」により「長崎民友新聞」「軍港新聞」「島原新聞」と合併し『長崎日報』を発売。終戦年の1945年7月に『長崎新聞』と改題。同年8月9日、長崎市に原子爆弾が投下されて終戦を迎えた。翌昭和21年12

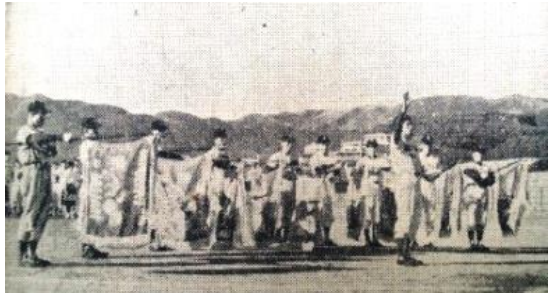
月9日に『長崎新聞』を解体して「長崎日日新聞」「長崎民友新聞」「佐世保時事新聞」「新島原」に分裂した。『長崎日日新聞社』主催で昭和26年に始まった県下郡市対抗野球大会も今回で第9回となったがこの年の1月15日に「長崎民友新聞」と合併し『長崎新聞』と改題された。(ウィキペディアより資料引用)

**第9回県下郡市対抗 準硬式野球選手権大会**

優勝大会 10月31日(日) 11月1日(日)

共催 長崎新聞社 県軟式野球連盟

長崎新聞社主催となったことから大会名に「選手権」が付き、県内野球大会で最も権威ある大会となった第9回大会は、長崎市宮大橋球場に県下9地区代表(対馬は定期船欠航のため棄権)と、前年優勝で推薦出場の西肥バスの10チームが参加、秋空に高く鳴りわたるファンファーレによって華々しく幕をあけた。雲一つない秋晴れのもと県警ブラスバンドの先導で女子高生が持つ国旗、大会旗、連盟旗。続いて審判員、選手団は大会優勝旗を捧持した西肥バスを先頭に、9地区代表が地区優勝旗をなびかせながら堂々と入場して開会式は始まった。選手を代表して西肥バスの浮田主将が選手宣誓を行なって式を閉じ、大橋球場では二回戦の4試合、三菱球場で二回戦2試合の、計6試合が第一日に行なわれた。



(昭和34年11月1日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【諫早】打安点

④井手	6	2	2
⑧近藤	5	2	1
⑤岡	5	1	1
⑨山田	3	2	2
9前川	2	0	0
③川村	5	2	0
①6鶴島	4	1	1
⑥1山口	5	2	1
②上野	5	2	1
⑦森山	5	0	0
45	14	9	

【一回戦】大橋:第1試合 振球犠盗併残失

県諫早土木事務所	232	100	003	11	4	0	1	4	0	8	0
勝本町	100	001	000	2	4	1	0	0	1	2	7

【三】岡、上野、鶴島、土肥 【二】川村、永田

【評】勝負は立ち上がりで決まった。諫早は球威のない勝本の吉田投手を初回から激しく攻め、四回までに10安打を放って毎回得点の8点を挙げた。吉田は球威が無いのに真正面から勝負を挑んで失敗していた。しかし吉田の不調もさることながら勝本の守備陣の拙守が点差を大きくした。打線もさして好調と思えない諫早の鶴島、山口の両投手から2点を報いたのみで、今春に壱岐商を卒業したばかりの若い吉田投手にとっては苦戦だった。

【勝本町】打安点

②土肥	4	2	0
③吉田明	3	0	0
①吉田正	4	2	1
⑧大久保	2	0	0
8田口	1	1	1
H平田恵	1	0	0
⑥平田清	3	0	0
⑨永田	3	1	0
⑤下条	3	0	0
④徳永	3	0	0
⑦立石	1	0	0
7深山	2	0	0
30	6	2	

【西肥】打安点

⑥3	南里	4	2	1
	9村上	1	0	0
	⑦飯田	3	1	1
③43	浮田	6	3	2
④6	波井	5	2	3
⑧4	緒方	4	1	0
⑨	西町	1	0	0
#	喜々津	3	1	0
⑤	田中	4	2	4
②	井崎	5	0	0
①	吉田	4	1	1
		40	13	12

【一回戦】大橋:第2試合

西肥バス	104	006	021	14	2	8	1	4	0	8	0
島原ラッキー	001	000	030	4	3	2	0	0	1	6	4

振球犠盗併残失

【三】飯田【二】浮田、田中2、山口

【評】島原は補強の下手投げの森山で目先をかわそうという作戦だったが、初回到浮田、波井の長短打で1点、三回到南里に死球を与え飯田に三塁打されて降板。代わった主戦の坂本も遊ゴロ野選と田中の2点二塁打で加点された。六回には打者一巡の猛攻で6点を失なう始末。

一方の西肥バスは西町を温存して吉田を起用する余裕を見せた。吉田は単調ながら低目を突いて無難に切り抜けたが、八回到4安打で3点を返されたが、この反撃も大量得点差の前には焼け石に水。

島原ラッキーは地区予選の決勝でドンキースを6-0で破って2年連続2回目の出場だった。

【島原】打安点

⑤1	山口	5	2	0
⑥	富永	3	1	1
②	入江	3	0	0
⑦	原口	4	0	0
⑧18	坂本	4	1	1
①	森山	1	0	0
859	片山	3	2	1
③	畑	4	1	0
④	都成	4	0	0
⑨89	松田	4	1	1
		35	8	4

## 山田が大会第1号 前半で勝敗決まる

【二回戦】大橋:第3試合

長崎機械工具	001	012	200	6	5	3	2	2	0	6	1
県諫早土木事務所	000	000	020	2	2	1	1	1	0	7	3

振球犠盗併残失

【本】山田(長)【三】近藤【二】近藤、原、佐々野、藤枝

【評】長崎は三回到四球と二盗の平山が捕手悪送球で三進、山田の左前適時打で先制。五回は山田が左翼席に叩き込んで試合の主導権を握った。さらに六回は藤枝の二塁打を間に二つの敵失で2点、七回には長短打の二三塁に捕逸と犠飛により、着実に加点した。

地区予選の決勝で長崎刑務所に0-9で敗退した県諫早事務所は長刑の棄権で初の代表となったが、八回到代わった宮原から安打と二塁失の無死一二塁に近藤の右中間三塁打で2点を返したに止まり、今季の公式戦で20勝の6敗目を喫した。

長崎機械工具は3年ぶり三度目の出場。過去2大会とも準優勝に甘んじており、県庁から投手の宮原、強打の入江と佐々野を補強して、「今年こそは！」の意気に燃えている。

【諫早】打安点

④	井手	4	1	0
⑧	近藤	4	3	2
⑤	岡	4	0	0
⑨	山田	4	0	0
③	川村	3	0	0
①	鶴島	3	2	0
⑥	山口	4	0	0
②	上野	4	0	0
⑦	森山	4	1	0
		34	7	2

【長崎】打安点

⑧	成宮	2	0	0
	9原	3	1	0
④	山田	5	3	2
⑦	入江	5	1	0
②	川内	3	0	1
⑨8	佐々野	3	1	0
③	平尾	1	0	0
3	小西	2	0	0
⑥	藤枝	3	1	1
①	茂	2	0	0
H	泉	1	0	0
1	宮原	1	0	0
⑤	平山	3	0	0
		34	7	4

## 澱粉に決定打なし

【二回戦】大橋:第4試合

全澱粉	011	000	000	2	7	5	2	2	0	9	2
西肥バス	200	110	02X	6	5	2	1	3	0	4	1

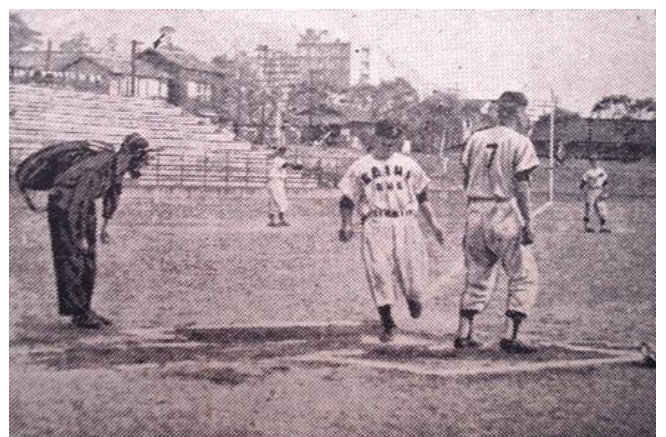
振球犠盗併残失

【三】浮田2、飯田、荒木【二】小川

【評】西肥バスは鮮やかな先制攻撃で初回到全澱粉の中野投手に飯田、浮田、波井が3連続長短打を浴びせ2点を先行。二回と三回到1点ずつを返されて一度はタイとされたものの、四回は田中の右前テキサス打で緒方が、五回にはスクイズ失敗から三本間に挟まれた南里が澱粉の拙い守備に救われて還り、再び優位に立った。

全澱粉の中野は切れのよいカーブを持っていたが外角低めに決まらず4年連続出場は初戦で消えた。大村東彼地区予選では、市役所を3-0、火力発電所を11-1、東芝炉材を5-2で破り、2割6分の高打率で代表権を勝ち取った。

西肥バスは前年度優勝で推薦出場は三回目の出場。主戦の西町は変化



西肥バス1回裏浮田の右越え三塁打で一塁から飯田が還り先取点を挙げる

球でうまくコーナーを突く技巧派に転換して円熟味を帯びてきた。メンバーは昨年と余り変わっておらず、全体的にまとまっているのが強味。

【全澱粉】打安点

⑦	中村	3	0	0
⑥	馬場	3	0	0
③2	小川	4	1	1
⑤	荒木	4	3	0
①	中野	3	1	0
⑧	永尾	4	0	0
④	大島	3	0	1
②3	牧之内	4	1	0
⑨	安藤	1	0	0
9	北川	2	1	0
		31	7	2

【西肥】打安点

③	南里	4	1	0
⑦	飯田	4	3	0
④	浮田	4	2	2
⑥	波井	3	1	1
⑧	緒方	3	1	1
①	西町	3	0	0
⑤	田中	4	1	1
②	井崎	3	0	0
⑨	喜々津	3	0	0
		31	9	5

# 4回6点の猛攻

## 福江北、後半の反撃及ばず

【二回戦】三菱:第1試合

振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	003 601 002	12	3	5	1	3	1	9	2
福江北クラブ	010 001 022	6	4	2	1	1	0	8	9

【三】木原 【二】波多、木原、森田、山下

【福江北】打安点

【御橋】打安点

⑥ 亀 沖	3 1 0
⑧5 木 原	6 2 3
② 進 藤	6 2 2
③1 波 多	5 2 1
①8 畑 田	5 1 1
⑦ 米 村	2 0 0
7 米 倉	1 0 0
⑨ 井 浦	5 1 0
⑤3 西 浦	5 0 0
④ 砂 田	4 1 0

42 10 7

【評】数々の球歴を持つ日鉄北松御橋炭鉦が、四回に打者一巡の猛攻で一挙6点を挙げた。

2年連続出場で、一回戦で北斗クラブ(対馬)が定期船欠航により棄権したため不戦勝が転がり込んだ福江北クラブは、二回に内野安打と犠打二進後に森田の中堅を破る二塁打で1点先取した。しかしその後の三回の守備で3失策が出た後で2本の二塁打を許して3点を奪われ一気に逆転された。

リードに気を良くした御橋は、四回にも決めダメのない的野投手に三塁打を含む6安打を浴びせ打者12人で一挙6点を挙げて試合を決定的なものにした。

福江は八回にリーフの波多に4安打を集中して2点、九回も敵失に2二塁打で2点を返して尻上がりの調子を見せたが、四回に失策が絡んだ6失点が重くのしかかった。

② 夏 井	4 1 0
③1 岡 本	5 0 0
⑥ 佐々木	4 2 0
⑤ 山 下	5 3 2
①3 的 野	4 1 0
④ 森 田	4 2 3
⑧ 植 松	4 1 0
⑦ 山 内	4 0 0
⑨ 鍵 原	1 0 0
H 薩 本	1 0 0
9 岩 本	1 0 0
H 三 浦	1 0 0

38 10 5

# 尾崎、中盤に疲れる

## 5回に8本の集中打

【二回戦】三菱:第2試合

振球犠盗併残失

端 島 炭 鉦	013 000 000	4	2	0	1	1	1	4	5
親和土建クラブ	201 075 01X	16	4	4	1	6	1	7	2

【本】柴山 【三】稲尾、山根、内山 【二】尾崎

【端島】打安点

⑥ 安 達	3 0 0
③ 森	4 2 0
⑧ 船 津	4 1 0
⑦1 牛 島	4 0 0
①9 尾 崎	4 2 1
⑨7 小 沼	4 1 0
④ 川 本	4 1 1
② 神 谷	3 0 0
H 吉 田	1 0 0
⑤ 矢 野	3 0 0

34 7 2

【評】昨年の準優勝投手の端島・尾崎、一昨年に紋珠岳炭鉦が初出場・初優勝した時の立役者だった親和土建・末藤。ともに県内屈指の技巧派投手の先発で好試合が期待されたが、尾崎の球に威力が無く親和土建の一方的勝利に終わった。

佐世保地区代表の親和土建は佐藤の安打と敵失後に、稲尾の三塁打で2点を先制。だが端島も二回と三回に6安打を放って、逆に2点をリード。ここまでは白熱した試合だった。しかし尾崎は五回に急にスピードが落ち、カーブ、ドロップに威力が無くなり、この回に打者11人8安打を集中されて7点を許した。

調子に乗った親和土建は六回にも3点を奪って尾崎をKO。救援の牛島にも攻め立てこの回に5点。八回は柴山の左中間ランニング弾で合計16点を奪い、五回以降の端島を1安打無得点に抑えた。

親和土建は佐世保地区予選でのチーム打率が2割弱の低アベレージだったが、この試合に限っては4割強の高打率を残した。

【親和】打安点

④6 柴 山	6 2 2
⑦ 佐 藤	6 3 0
⑧ 山 根	5 1 1
⑤ 稲 尾	5 3 0
③ 井ノ口	1 0 0
3 内 山	2 1 2
② 野 田	5 3 1
⑨ 楠 田	5 2 2
① 末 藤	1 0 0
1 福 島	1 1 0
⑥ 吉 井	1 0 0
4 牧 野	4 1 1

42 17 9



# 長崎、先制空し

【準決勝】第1試合 (延長15回)

振球犠盗併残失

西 肥 バ ス	000 002 000 000 002	4	7	3	2	1	1	11	0
長崎機械工具	200 000 000 000 000	2	3	4	0	2	1	11	3

【二】浮田

2時間23分

【評】長崎機械工具は初回二死二三塁に佐々野の左中間安打で2点を先制。その後も浮田のスローボールに対して五回まで毎回安打を放ちながらも荒いバッティングで追加点ができなかった。リードされた西肥バスは六回一死後に飯田が三塁線安打、浮田の右越え二塁打の二三塁に波井の右2点適時打で同点として、七回から西町を登板させた。それ以後は宮原と西町の投手戦が続いた。

延長15回、西肥は南里がストレートの四球で歩くと茂が登板。飯田は中前に快打して二盗していた南里を還し(右写真)均衡を破ると、一死後に波井の投ゴロを併殺しようと二塁送球が悪投で飯田は三進。緒方が2球目にスクイズを決めた。

長崎は前半に軟投の浮田を慎重に攻めて1点でも取っておけば、逃げ切れたかも知れない。



【西肥】打安点

③ 南 里	7 0 0
⑦ 飯 田	6 3 1
①9 浮 田	7 2 0
⑥ 波 井	6 2 2
⑧ 緒 方	5 1 1
⑨1 西 町	7 2 0
⑤ 田 中	6 2 0
② 井 崎	6 0 0
④ 喜々津	6 0 0

56 12 4

【長崎】打安点

⑦ 入 江	6 1 0
③ 小 西	2 0 0
3 平 尾	4 0 0
④ 山 田	7 1 0
② 川 内	7 3 0
⑧ 佐々野	7 1 2
⑨ 原	2 0 0
9 林	2 0 0
9 成 宮	1 0 0
⑥ 藤 枝	5 2 0
① 宮 原	6 2 0
1 茂	0 0 0
⑤ 平 山	6 1 0

55 11 2

延長15回無死二塁、飯田の中前打で南里が生還して2-2の均衡を破る

大会最終日は折悪しく朝から雨が降り続き、いいコンディションでは無かったが、好打好守の応酬にスタンドのファンは去りもせず熱戦を見守っていた。



【準決勝】第2試合 振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	000 000 000	0	3	0	1	1	0	4	1
親和土建クラブ	000 101 40X	6	4	1	0	2	1	5	1

【三】佐藤 【二】佐藤、稲尾 1時間44分

【評】御橋の左腕・小松は切れのよい外角シュートを決めダマにコーナー一杯を突くうまいピッチングで三回まで三者凡退に抑えていた。ところが降り出した雨で肩を冷やしたのか急に四回から調子を乱し、一死後佐藤に投手左にバントヒットを許し、一塁悪投で二進させた。続く山根の左前打で本塁突入の佐藤は好返球により刺したが、稲尾にも遊撃右を抜かれて先取点を許した。これにガックリの小松は六回に佐藤と稲尾の二塁打で1点、七回には野田以下佐藤まで、楠田のバントを挟んで5安打のつるべ打ちに遭いKOされ、畑田を繰り出して親和土建の攻撃をやっと食い止めた。

この親和土建の猛攻に傍観の御橋打線は、末次投手のチェンジ・オブ・ペースにすっかり巻き込まれ4安打を散発しただけで、三塁を踏めずに封じられた。

雨のため実力を発揮できなかった若い小松投手には気の毒だったが、打線にこう精彩が無くては勝ち目はなかった。

【御橋】打安点

⑥ 亀 沖	4	0	0
⑤ 木 原	4	0	0
② 進 藤	4	1	0
③ 波 多	4	0	0
⑧1 畑 田	3	0	0
⑦ 米 村	3	2	0
⑨8 井 浦	2	0	0
① 小 松	2	0	0
9 西 浦	1	1	0
④ 砂 田	3	0	0
30 4 0			

【親和】打安点

⑥ 柴 山	4	1	2
⑦ 佐 藤	4	3	1
⑧ 山 根	4	2	0
⑤ 稲 尾	4	2	2
③ 内 山	4	0	0
② 野 田	3	1	0
⑨ 楠 田	3	0	0
① 末 藤	4	1	0
④ 牧 野	3	1	1
33 11 6			

## 佐世保勢同士の決戦は親和土建が初V 末藤、西肥バスを完封

【決勝戦】 1時間21分 振球犠盗併残失

西 肥 バ ス	000 000 000	0	7	1	0	0	0	7	1
親和土建クラブ	110 000 00X	2	7	7	2	8	0	11	2

【三】柴山【二】末藤、波井、喜々津

【西 肥】打安点

③ 南 里	4	1	0
⑦ 飯 田	4	0	0
①8 浮 田	4	0	0
⑥ 波 井	4	1	0
⑧2 緒 方	4	0	0
⑨81 西 町	4	0	0
⑤ 田 中	4	0	0
② 井 崎	1	0	0
9 田 中	1	0	0
9 井 崎	1	0	0
④ 喜々津	2	2	0
33 4 0			

【評】初回の親和土建は遊失の柴山が二盗、佐藤が歩いてダブルスチールを決めて山根の中犠飛で1点を先行。二回は楠田、末藤の短長打の一死二三塁に牧野の犠飛とソツなく加点して優位に立った。雨の中でやりにくい点もあったが、このあたりは西肥バスにもっとファイトを燃やしてもらいたかった。特に三回までに5盗塁を許したバッテリーは、相手走者に走るに任せた格好だった。それでも四回から西町一緒方に代わるとグッと引き締め、その後の追加点を阻んだが打線は最後まで末藤を打ち込めなかった。末藤は大きく割れるカーブと小さく曲がるカーブの二種類を持ち、外角一杯をつく直球をうまくミックスして打者を自己のペースに巻き込む巧妙なピッチング。六回と九回のピンチも冷静に後続を打ち取り、前試合に引き続いて完封した。

西肥バスは六回一死一三塁に飯田の投ゴロで三走が飛び出し挟殺され、最終回は二走者を置いて放った田中の右越え大飛球が、楠田に好捕された。

【親和】打安点

⑥ 柴 山	5	2	0
⑦ 佐 藤	3	1	0
⑧ 山 根	2	1	1
⑤ 稲 尾	4	1	0
② 野 田	4	0	0
③ 内 山	2	0	0
⑨ 楠 田	2	1	0
① 末 藤	4	1	0
④ 牧 野	2	1	1
28 8 2			



個人表彰者

- ◇最高殊勲選手賞＝末藤繁投手(親和) ◇最優秀投手賞＝末藤繁(親和)
- ◇首位打者賞＝近藤稔紀中堅手(諫早) ◇殊勲選手賞＝佐藤武雄左翼手(親和)
- ◇敢闘賞＝西町吉生(西肥)、浮田逸郎(西肥)、稲尾義文(親和)、宮原直善(長崎)
- ◇優勝監督賞＝前田六次(親和土建)

昭和34年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第14回全日本軟式野球大会【51チーム】

(S34.8.13～:群馬県)

西 肥 自 動 車【一】 0-1 昭和石油四日市(三重)

第14回東京国体(25チーム)には不出場

第10回西日本準硬式【26チーム】5.3～:福井県

日本冷熱工業【二】 2-3 倉敷レーヨン(岡山)

第3回高松宮賜杯全日本大会 8.25～:札幌市

1部(10チーム)は九州ブロックから、大分が出場し準優勝。  
2部(10チーム)は九州ブロックから、福岡が出場し優勝。